

第 157 回日商簿記検定試験 模範解答

3 級

商 業 簿 記

第 1 問

	仕 訳			
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	現 金	10,000	備 品	360,000
	備品減価償却累計額	300,000		
	固定資産売却損	50,000		
2	修 繕 費	230,000	未 払 金	230,000
3	租 税 公 課	5,500	現 金	7,500
	通 信 費	2,000		
4	当 座 預 金	2,960,000	手 形 借 入 金	3,000,000
	支 払 利 息	40,000		
5	売 掛 金	71,500	売 上	65,000
			仮 受 消 費 税	6,500

仕訳 1 組につき 4 点 合計 20 点
(配点は、当学院の予想です)

第 2 問

①	②	③	④	⑤
120	40	130	10,800	6,250

各問 2 点 合計 10 点
(配点は、当学院の予想です)

第 3 問

合 計 試 算 表

借 方		勘 定 科 目	貸 方	
11 月 30 日	10 月 31 日		10 月 31 日	11 月 30 日
13,250,000	12,200,000	現 金	11,700,000	12,780,000
27,450,000	25,200,000	普 通 預 金	22,000,000	25,179,200
6,850,000	5,600,000	売 掛 金	4,800,000	5,600,000
1,150,000	700,000	受 取 商 品 券	700,000	1,150,000
1,400,000	1,400,000	繰 越 商 品		
1,450,000	1,450,000	仮 払 金	700,000	1,300,000
1,800,000	1,200,000	備 品		
13,500,000	11,400,000	買 掛 金	13,500,000	15,300,000
400,000	350,000	所 得 税 預 り 金	400,000	435,000
254,000	225,000	社 会 保 険 料 預 り 金	254,000	284,000
2,400,000	2,100,000	借 入 金	3,000,000	3,000,000
		備品減価償却累計額	750,000	750,000
		資 本 金	4,520,000	4,520,000
251,000	251,000	繰越利益剰余金		
180,000	150,000	売 上	17,600,000	20,350,000
13,800,000	12,000,000	仕 入		
2,650,000	2,300,000	給 料		
254,000	225,000	法 定 福 利 費		
1,380,000	1,230,000	水 道 光 熱 費		
1,600,000	1,400,000	支 払 家 賃		
250,000	220,000	通 信 費		
15,200	15,000	支 払 手 数 料		
232,000	182,000	広 告 宣 伝 費		
132,000	126,000	支 払 利 息		
90,648,200	79,924,000		79,924,000	90,648,200

1 つにつき 2 点 合計 30 点
(配点は、当学院の予想です)

第 4 問

①	②	③	④	⑤
ト	ウ	ソ	シ	エ
⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
コ	ア	セ	キ	ス

各問 1 点 合計 10 点
(配点は、当学院の予想です)

第 5 問
問 1

決算整理後残高試算表

X9 年 3 月 31 日

借 方	勘 定 科 目	貸 方
96,000	現 金	
1,069,000	普 通 預 金	
400,000	売 掛 金	
12,000	前 払 保 険 料	
350,000	繰 越 商 品	
2,000,000	建 物	
800,000	備 品	
3,000,000	土 地	
	買 掛 金	559,000
	借 入 金	197,000
	前 受 手 数 料	20,000
	未 払 法 人 税 等	340,000
	貸 倒 引 当 金	8,000
	建物減価償却累計額	550,000
	備品減価償却累計額	330,000
	資 本 金	3,150,000
	繰越利益剰余金	1,470,000
	売 上	6,600,000
	受 取 手 数 料	120,000
3,340,000	仕 入	
1,500,000	給 料	
55,000	旅 費 交 通 費	
48,000	保 険 料	
3,000	貸倒引当金繰入	
180,000	減 価 償 却 費	
1,000	雑 (損)	
490,000	法人税、住民税及び事業税	
13,344,000		13,344,000

問 2 ￥ (1,103,000)

問 1 1 つにつき 3 点
問 2 3 点
合計 30 点
(配点は、当学院の予想です)

【3級解説】

第 1 問

3. 収入印紙は租税公課勘定、郵便切手は通信費勘定で処理します。
4. 銀行から借り入れる際に約束手形を振り出した場合は、手形借入金勘定を使用します。

$$\text{支払利息} : \text{¥}3,000,000 \times 2\% \times \frac{8\text{ヵ月}}{12\text{ヵ月}} = \text{¥}40,000$$

第 2 問

商品有高帳の記載内容を示すと以下のとおりです。

商 品 有 高 帳											
(先入先出法)			A 商 品								
X8 年		摘 要	受 入			払 出			残 高		
			数 量	単 価	金 額	数 量	単 価	金 額	数 量	単 価	金 額
10	1	前月繰越	(40)	(130)	5,200				{ (40)	(130)	5,200
	10	仕 入	(100)	(120)	(12,000)				{ (100)	(120)	(12,000)
	20	売 上				{ (40)	(130)	(5,200)			
						{ 90	(120)	(10,800)	{ (10)	(120)	(1,200)
	25	仕 入	50	125	6,250				{ (50)	(125)	(6,250)

- 10 日 : 仕入帳より 100 個 @¥120 ¥12,000 ∴①¥120
- 20 日 : 売上帳より、販売数量が 130 個と判明、商品有高帳の記入内容から 10 日で仕入れた商品の払出数量が 90 個となっているため、前月繰越商品の払出数量②は 40 個と判明。
- 前月繰越商品の金額が¥5,200 のため払出単価③は¥130(=¥5,200÷40 個)と判明。
- 10 日で仕入れた商品の単価は¥120 と判明しているため、払出金額④は¥10,800(=¥120×90 個)と判明。
- 25 日 : 仕入帳の金額⑤は、商品有高帳の 25 日の記載内容から¥6,250 と判明。

第 3 問

11 月中の取引の仕訳は以下のとおりです。

1 日	(仕 入)	1,200,000	(買 掛 金)	1,200,000
3 日	(売 上)	30,000	(現 金)	30,000
5 日	(広 告 宣 伝 費)	50,000	(現 金)	50,000
8 日	(受 取 商 品 券)	200,000	(売 上)	2,000,000
	(現 金)	550,000		
	(売 掛 金)	1,250,000		
10 日	(所 得 税 預 り 金)	50,000	(普 通 預 金)	50,000
12 日	(備 品)	600,000	(仮 払 金)	600,000
15 日	(受 取 商 品 券)	250,000	(売 上)	750,000
	(現 金)	500,000		
16 日	(普 通 預 金)	1,000,000	(現 金)	1,000,000
18 日	(借 入 金)	300,000	(普 通 預 金)	306,000
	(支 払 利 息)	6,000		

20 日	(給 料)	350,000	(所 得 税 預 り 金)	35,000
			(社 会 保 険 料 預 り 金)	30,000
			(普 通 預 金)	285,000
22 日	(仕 入)	600,000	(買 掛 金)	600,000
25 日	(買 掛 金)	2,100,000	(普 通 預 金)	2,100,000
	(支 払 手 数 料)	200	(普 通 預 金)	200
"	(普 通 預 金)	800,000	(売 掛 金)	800,000
26 日	(普 通 預 金)	450,000	(受 取 商 品 券)	450,000 *
* ¥200,000(8 日) + ¥250,000(15 日) = ¥450,000				
28 日	(支 払 家 賃)	200,000	(普 通 預 金)	200,000
29 日	(水 道 光 熱 費)	150,000	(普 通 預 金)	180,000
	(通 信 費)	30,000		
30 日	(社 会 保 険 料 預 り 金)	29,000	(普 通 預 金)	58,000
	(法 定 福 利 費)	29,000		

第 4 問

1. 給料から差し引かれる所得税の源泉徴収額は、租税公課などの（ 費 用 ）ではなく、会社にとっては預り金として貸借対照表上（ 負 債 ）に計上される。
2. 当座預金の引出しには、一般に（ 小切手 ）が使われる。他社が振り出した（ 小切手 ）を受け取った場合、（ 現 金 ）として処理する。
3. （ 前 期 ）に生じた売掛金が当期中に回収不能となった場合、（ 前 期 ）決算日に設定された（ 貸倒引当金 ）を取り崩す。
4. 決算は、決算予備手続、決算本手続の順に行われる。決算予備手続では、（ 試算表 ）が作成され、決算本手続では帳簿が締め切られる。そして最終的に（ 財務諸表 ）が作成される。
5. 売掛金勘定や買掛金勘定は、主要簿である（ 総勘定元帳 ）に収められる。主要簿には（ 総勘定元帳 ）のほか、（ 仕訳帳 ）がある。

第 5 問

問 1 (仕訳の単位：円)

決算整理仕訳は以下のとおりです。

1. 現金過不足について

(雑 損)	1,000 *	(現 金)	1,000
---------	---------	---------	-------

* 手元有高¥96,000－帳簿残高¥97,000＝△¥1,000

2. 当座預金貸方残高について

(当 座 預 金)	197,000	(借 入 金)	197,000
-------------	---------	-----------	---------

3. 売掛金について

(普 通 預 金)	158,000	(売 掛 金)	158,000
-------------	---------	-----------	---------

4. 貸倒引当金の設定について

(貸倒引当金繰入)	3,000*	(貸倒引当金)	3,000
-----------	--------	---------	-------

売掛金の期末残高の 2%(¥8,000)を貸倒引当金として設定するため、決算整理前の貸倒引当金残高 ¥5,000 に ¥3,000 を繰り入れます。

$$* (\text{¥}558,000 - \text{¥}158,000) \times 2\% - \text{¥}5,000 = \text{¥}3,000$$

5. 売上原価の算定について (仕入勘定で算定)

(仕入)	290,000 ^{*1}	(繰越商品)	290,000
(繰越商品)	350,000 ^{*2}	(仕入)	350,000

帳簿上の売上原価の算定仕訳には「仕入」勘定や「売上原価」勘定を使用する方法がありますが、いずれの場合も損益計算書や貸借対照表上の表示は同じです。

*1 期首商品棚卸高：整理前試算表の「繰越商品」勘定残高より判明します。

*2 期末商品棚卸高：問題文資料より判明します。

6. 減価償却費の計算について

(減価償却費)	180,000	(建物減価償却累計額)	50,000 ^{*1}
		(備品減価償却累計額)	130,000 ^{*2}

$$*1 \text{ ¥}2,000,000 \div 40 \text{ 年} = \text{¥}50,000$$

$$*2 \text{ 既存分 } (\text{¥}800,000 - \text{¥}300,000) \div 5 \text{ 年} = \text{¥}100,000$$

$$\text{新規分 } \text{¥}300,000 \div 5 \text{ 年} \times \frac{6 \text{ カ月}}{12 \text{ カ月}} = \text{¥}30,000 \quad \text{合計 ¥}130,000$$

7. 前受手数料について

(受取手数料)	20,000	(前受手数料)	20,000
---------	--------	---------	--------

8. 前払保険料について

(前払保険料)	12,000	(保険料)	12,000*
---------	--------	-------	---------

当期 7 月 1 日に支払った保険料のうち、3 カ月分(翌期 4/1~6/30 分)は次期の期間に対するものなので、当期の保険料から控除します。

$$* \text{¥}48,000 \times \frac{3 \text{ カ月}}{12 \text{ カ月}} = \text{¥}12,000$$

9. 法人税等について

(法人税等)	490,000	(仮払法人税等)	150,000
		(未払法人税等)	340,000

問 2

問 1 の決算整理後残高試算表(売上勘定から法人税等)より

$$\text{総収益 ¥}6,720,000 - \text{総費用 ¥}5,617,000 = \text{¥}1,103,000 \text{ (当期純利益)}$$